



Salamat Po = ありがとう。
たくさんの感謝の気持ちを忘
れずマニラの様子を伝えてい
きたいと思います。

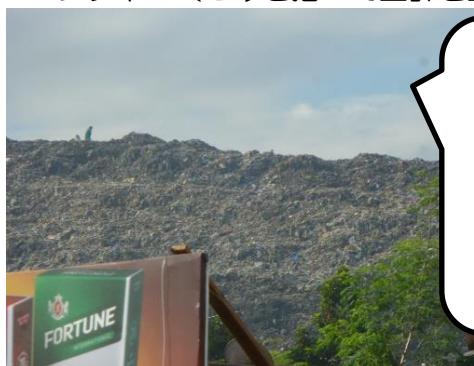
3学期が1月5日(木)から始まりました。早すぎて全く慣れません。(笑)本州の先生方は、何も問題なく働いていますが…。1週間経ちましたが、なんかフワフワしています。

パヤタス・スマーキーバレーを訪れて

目の前に広がる巨大なゴミでできた山。その山が目の前にあり、ゴミを拾って生活しているパヤタス地区にNPO法人主催のツアーで行く機会がありました。フィリピンに来た時から、「ここは絶対行きたい」と思っていた場所。衝撃を受けた一方、たくさん考えさせられました。

① パヤタスとは

ケソン市(マニラ中心から1時間ぐらい北に行った所)にある地区。約12万人が住んでいて、月収3000ペソ(7500円程度)の最貧困層が25%を超えてます。その中でも、15%がスカンチャ(ごみを拾って生計を立てている)として生活しています。



ゴミ山です。写真にも頂上にいる人が映っていますが、お金になりそうなゴミを拾っています。

小学校です。気になったのは、屋根の上にたくさんゴミがあったこと。残念な気持ちになりました。



パヤタスに住む女の子の話を聞きました。家賃は、1000ペソ（2500円）です。約2畳の空間が二つ。土の上に敷物が敷いてあるだけです。ここに6人で生活しています。右は、外にあった炊事場。ガス・冷蔵庫はありません。

たくさんの子ども達が住んでいます。カメラを向けるとみんな笑顔で撮影に応えてくれます。

いて、その中を子ども達は、裸足で鬼ごっこをしている。ここに移住してきた人は、マニラで住む場所を失った人や農村から仕事を求めてやってきた人です。3000人のスカベンチャー（ごみ拾いで生計を立てている人）の1日の賃金は約200円。劣悪な環境の中で、人々は笑顔で暮らしている。その遅しさに学ぶべき事がたくさんありました。フィリピンにいるうちに、この人達になにか貢献できることをしたいなと強く思ったツアーディレクターでした。